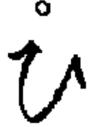
# ロジスティクス研究会

ファックス通信 題字浅井時郎東ト協名誉会長 インターネット・ホームページ URL http://www.totokyo.or.jp/ e-mail:sounenbu@tta.ne.jp

#### e-mail : sounenbu@tta.ne.jp *〜安全と安心の共創*〜







(社) 東 京 都 ト ラ ッ ク 協 会編 集 人 大 淵 隆 次 東京都新宿区四谷3丁目1番8号 TEL.03-3359-4137 FAX.03-3359-6020

2006年7月28日発行 7月号 No. 138

## ◇ロジスティクス研究会のスタートを祝う

(社)東京都トラック協会 会長 星野 良三

壮年部改め、新生ロジスティクス研究会のスタートにあたり、一 言お祝いを申し上げます。

この会は、昭和63年2月19日、「東ト協青年部OB物流研究会議」として議長に二科充弘氏・中後運送株式会社(現・中央物流株式会社代表取締役)が就任し74名の会員をもって発足したと聞きます。

その後平成2年、「東ト協物流研究会議」に名称変更し、さらに 平成5年6月に支部壮年部を設置し、名前も(社)東京都トラック 協会壮年部物流研究会議とし、同年11月には(社)東京都トラック 分協会壮年部と改変し、現在に至った経緯があるそうです。

そこから見て取れるように、18年の歴史のなかで、常に名称や 組織をその時代にあったものへと柔軟に変え、世の中の変化と共に 自らが変わり続けてきた歴史があり、今般のロジスティクス研究会 への刷新も、まさに時宜を得たものであると思います。

時代は少子高齢化を背景に、規制緩和を経て自己責任が厳しく要求される社会へと変わりつつあります。今こそ協会員の企業が襟を正し、実運送を大事にし、足元を固める意味において、このロジスティクス研究会を立ち上げた意味はとても大きなものがあると考えます。皆さんの熱意と、そこに集いし仲間の熱き思いを大切に、これからの東ト協の一翼を担うべく、今後の活動に期待を寄せるところであります。より一層の健闘を切望します。

#### ◇第1回オープンセミナーを開催

## 研修委員長 鈴木 貢[葛飾支部 예すずか梱包運輸]

トラック協会壮年部がロジスティクス研究会と名称及び執行部体制が変わって初めての対外活動とも言える第1回研修会を行ないました。表題は「中小トラック運送事業者のための提案型営業について」。先立って全ト協の委託により各店社を回ってヒアリングを行なった結果を分析、集計した冊子が出来上がったので、それを基に講演・説明を行なっていただきました。講師は、株式会社湯浅コンサルティングのコンサルタント内田明美子氏です。

氏は調査結果を基に、この提案型営業についてはこれといって決まったパターンは存在せず、各社それぞれにあらゆる機会を捉えて荷主と交渉していることが判り、そのため集計として捉えづらかったとの事でしたが、何とか共通項を見つけ出し整理したそうです。

こうして整理した提案は次の3ステップに分類されるそうで、その前後関係若しくは必須性は問わないそうです。先ずは己を知るということ、我が社の体制をしっかり固めて自社の強みを認識することから始まります。つぎは敵の現状を分析して付き入る隙を見つけること。提案の準備として荷主の困っていることを見つけ荷主ニーズを掘り起こすことです。このとき決して荷主ニーズを聞いてしまってはいけません。「早く、安く、確実に」という答えが帰ってくるだけです。最後は提案です。最終提案は先の先と考え、まずは相手の反応を待ちましょう。提案をすぐにも受け入れてくれる荷主はまずいません。ここからが苦難の道のりの始まりです。挫折にもめげず提案を繰り返していくことにより、1.新規事業の獲得(すぐには達成できないものです)、2.価格のアップもしくは維持、3.荷主との関係強化、という報酬が得られる(目的が達成される)かも知れません。少なくとも、提案型営業が会社を強くしていく事は間違いなさそうです。

今回の講演ではいつ、どの様にという課題でその見極めに関して あまり触れられてはいませんでしたが、それ程多種多様で一概には 語りつくせないものであるという認識が深まりました。それぞれが その会社の顔になるのだと思います。あきらめることなく信念を持って説得に当たることが非常に大事なことであると、改めて感じた講習会でした。

#### ◇多摩支部 三組織税制改正研修会を開催

#### 多摩支部壮年部長 飯沢 宗光 成光運輸㈱

去る7月14日(金)立川「コアシティビル4F」において、ロジ研・青年部・女性部が連携し、今年度の税制改正に関する研修会を開催しました。今回は、東京税理士政治連盟副会長の内田薫先生を講師にお招きし、「同族会社の役員報酬一部損金不算入について」というテーマでお話しをいただきました。これは、役員と同族関係者で、発行済株式総数の90%以上を保有し、かつ常勤役員が過半数を占める会社の場合、オーナー社長の報酬について、給与所得控除相当分を法人において損金算入できないことになるという概要です。中小零細企業が大勢を占める私達の業界は、影響が出る企業が多いと思われます。当日は、三組織のみならず一般会員も含め、大勢の参加があり、有意義な研修となりました。

## ◇壮年部長随想リレー

### 葛飾支部壮年部長 竹中 康浩 ㈱竹中興運

壮年部と言う名前が大嫌いで(今でも嫌いですが)、青年部から移ったあとも自分は青年部の相談役だと言い続けていました。辞書で見ると、血気盛んで働き盛りの年頃の人とありますが、自分的には中年親父の代名詞のようにとらえていましたね。

そんな私が部長だなんて笑っちゃいます。

振り返れば、青年部時代からそういった先輩方に支えられ助けてもらい、今の自分たちがあるのだと、最近感じています。まだまだ大先輩方には及びませんが、今まで指導してくださった数多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、精一杯頑張りたいと思っています。

先日、本部の研修委員を仰せつかりましたが、初めてと言う事もあり、自分自身試行錯誤しています。何をするのかは、これからが勉強 と考えています。

また、支部の活動ですが、数年前から青年部、壮年部一本化と言う 議題が何度となくでてきています。その背景は若手部員が不足してい て、青年部だけでは活動が出来ない状態になっている。結局は何をす るにも合同で行っているそんな現実が数年間続いていることもあり、 何か新しい方向性を見つけないといけないと感じています。不景気感 が漂う中、仕事が忙しいそんな暇は無いとなかなか若い人が参加して くれないのが現状です。

私自信も、朝に夜にトラックに乗って走っていますが、限られた時間の中ではありますがロジスティクス研究会を活性化させていきたい。そう思っています。

#### 《百文字のひろば》

駐車監視員の件は、そもそも納品先にトラック用の駐車場が無いから、路上に止めるのではないでしょうか。第三者の為に駐車せざるをえない車と自分の為の車とを区別する為に白・緑ナンバーがあるのでは? 原島 藤壽 [千代田支部 カンダコーポレーション(株]

「手を上げてわたる前に右左」の標語は歩行者に確認の上にも確認せよと注意を促しています。物流システムは高度化し効率を求めドライバーに対する要求も多くなっています。機械化できない末端物流にたずさわる物流マンのいかに確認作業の多いことか。ドライバーこそわが社の財産と再認識する次第です。

塚谷 卓二 [千代田支部 宝運送㈱]